

吉備国際大学研究紀要  
(人文・社会科学系)  
増刊号, 123-130, 2017

## 自主的な英語学習に導く課題の試み — 動機付けの観点から —

金沢 真弓

### **Attempts at Directing Students Towards Autonomous Learning - With Regard to Motivation -**

Mayumi Kanazawa

#### **Abstract**

In any subject, it goes without saying that enhancing students' motivation is essential in developing their academic abilities. Although a variety of teaching methods are being developed, they don't work well without adequate consideration of how to motivate students' learning as well as students' autonomous learning. This article reports on an attempt to provide two kinds of assignment to develop autonomous learning behavior. One of the assignments is an English-Japanese translation and the other one is a short presentation about the usage of basic English verbs. The paper explains how they were structured and conducted. Students' attitudes and reactions towards them are reported, along with suggestions how to promote students' motivation. The paper confirms the importance of guided self-study and the importance of the teachers' role as a facilitator of students' educational development.

**Key words** : Autonomous learning, Self-study, Motivational strategy, Assignments

**キーワード** : 自律的学習, 自主学習, 動機付け, 課題

## 1. はじめに

近年、初等、中等教育においては、「自ら学ぶ力」の大切さが広く認識されるようになり、それを旨とした実践教育も増えている。大学ではどうであろうか。大学での英語教育は教員や教科書から教えてもらうという受動的な学習ではなく、将来の目標を見据えたうえで能動的に学習することが必要である。しかしながら、大学全入時代を迎え、学生の中には、「自ら学ぶ」習慣が身に付いていない、学び方、学習方法がわからない、そして、学ぶことが楽しくない、学ぶ気にならない、という学生が多くいるのではないだろうか。特に、英語に苦手意識を持っている学生は、過去の英語学習体験の中でつまずき、英語学習の習慣が身に付いていないと考えられる。そのため、英語基礎力が身に付いていないままになっており、学習意欲の低下へとつながっているのではないかと考える。予習や復習の仕方がわからないため、何も準備をせず授業に出る。そのため、授業中での理解に時間がかかったり、スムーズに受け答えができなかったりすることがあり、英語は難しい、やっぱり苦手だ、無理だ、学習したくないという悪循環に陥ってしまうケースが多い。こういった学生たちに、英語学習への興味を促し、さらに、英語学習意欲を向上させ、自主的に勉強するように促すには、何を、どうやって使うかを考えてみた。これは、誰もが容易に思いつく研究目的であり、言葉にするのは非常に簡単であるが、その実現はなかなか難しい。学習者の主体的な学びを促すためには、学習者の学習に対する動機づけも高める必要がある。動機づけと学習とは切っても切り離せない存在である。高い動機づけを持った学習者は、高いレベルの達成度が得られる。Krashen等 (Krashen & Terrell, 1983) は、言語習得における情意フィルター的重要性を指摘している。情意フィルターが高いとき、つまり、学習者の動機が低いとき、過度に緊張しているとき、学習に不安を感じているとき、言語習得が妨げられるとされている。動機づけは、成

功を得るための努力を促進すると述べている。動機づけの最も重要な要素とは、学習に対する否定的な感情、学習への方向づけなどを肯定的な学習態度、自己効力に変更するものであると考えられる (McCombs, 1988)。動機づけされた学習者は、学習に対する肯定的な態度で学習に臨み、学習の成功へと導かれるものとする。特に、英語初級学習者には、Dörnyei (2001) が指摘するように、達成感から生まれるself-confidenceの育成が重要であると考えた。そこで、毎週、取り組みやすい課題で、ひとつは提出、ひとつは発表という形をとり、この課題の取り組みが、学習に対する肯定的な態度、自己効力感の向上につながり、受動的学習から自主的学習へとシフトし、自主的学習の継続に働きかけることを期待するものとする。

## 2. 実践の目的

本研究の目的は二つある。ひとつは、学生における自主的な学習の習慣化である。学習者が、与えられた課題を行うことにより、自ら学習方法を習得し、それを継続的に実施していくことにつながるのか、その効果を検証する。もう一つは、学習者の自主的な英語学習における意識の変化である。課題をすることによって、英語基礎読解力の向上や語彙力の増強に役立つ要素となるのかどうかを、学習者がどのように認識するかを観察することである。学習者に与えられた課題は2種類ある。ひとつは、Graded Readers (英語学習者のために語彙、文法、構文、を制限して書かれている図書) の1冊を日本語に翻訳して提出するものである。これは、完全に授業外で行うこととし、直訳ではなく、内容理解を通して自分なりに日本語らしい訳をすることをすすめた。もうひとつは、英語の基礎単語に含まれている動詞を各学生が担当して、その用法を調べ授業の最初に発表するものである。この二つの課題が、自主的に活動すること、自主的な学習の必要性における気づきと実践に有効的であったかを検証する。

### 3. 手続き

#### 3.1 対象者

本大学の1年生（33名）、2年生（6名）である。課題1に対しては、1年生（23名）を対象とし、課題2に対しては、1年生（10名）、2年生（6名）とした。この2年生の6名は前年度の課題2の調査対象者でもある。対象学生の中には、英語力が中学校の学習内容の復習が必要なレベルの学生も含まれている。

#### 3.2 課題の内容と方法

##### 3.2.1 課題1ー動詞の用法の発表

英語基礎単語の用法を学習させるため、まず、基礎英語の動詞をリストアップした。学生はリストアップした基礎英語の動詞からひとつ選び、その用法を調べ、その動詞を使った例文を授業の最初に発表する。例文は、異なった意味で使われた文を5つ以上作ることにした。英文と共に日本語訳も入れ、学生は、単語の意味と使い方を文にしたものを、パワーポイントを使って紹介をした。発表の前日までに、内容確認のため、必ず教員（筆者）に見せに来ること、発表の練習をすること、他の学生に配布する資料の準備も課題とした。

表1 基礎動詞の表

bring	feel	leave	see
call	find	make	spend
catch	get	move	study
come	give	pay	take
do	go	put	turn
fall	keep	run	work

##### 3.2.2 課題2ー翻訳

課題2は、すべて授業外で行うものとした。課題に利用したのはGraded Readersの2冊“The Lady of The Tiger” (Compass Publishing) と、“Inspector Rogan” (Cambridge University Press) である。1冊目の“The Lady of The Tiger” は、ワード数1200後で、1年生

23名に対する課題とした。この本は、前年度の1年生（現2年生）にも利用した。毎週1チャプターずつ翻訳し提出することを課題とした。各チャプターの英文は、筆者が前もって書き、その下の部分に日本語に翻訳したものを書けるようにした。もう1冊の“Inspector Rogan” は、ワード数4153語で、2年生への課題とした。1年生への課題より、難易度が高くなったものである。それぞれ、授業の中では読書に充てる時間は設けず、あくまでも授業外で行うこととした。英語に苦手意識を持っている学生は、英文を読むこと自体に抵抗感があり、これまで英語の本を読んだという経験もないということが、2015年度の調査（金沢、2015）でも判明した。そのため「本を1冊翻訳する」ということが課題となると、彼らは、それをかなりの負担と感じ、やる気を失せさせるものと考え、各チャプターのパッセージが200ワード程度で、ストーリー展開に興味を持てるものを選んだ。但し、2年生への課題本のワード数は2年目ということもあり、1チャプターが約600-800語の英語本にした。また、翻訳したものはまとめて、表紙をつけた。今後、英語のストーリーを読む興味を促すことを期待した。

### 4. 結果

#### 4.1 アンケート結果

15回目の最後の授業でアンケートを実施し、集計・分析した結果、学習者の学習に対する意識の変化を見ることができ、また学習動機につながるデータが得られた。アンケートの質問用紙には、自由記述のコメント欄も設けた。

##### 4.1.2 課題1について

語彙に対する意識では、図1で示してあるように、1年生の対象者で、語彙力について、自己の語彙力が十分ないと、全体の90%が回答しており、ほぼ全員が語彙を増やしたいと考えていることがわかった。

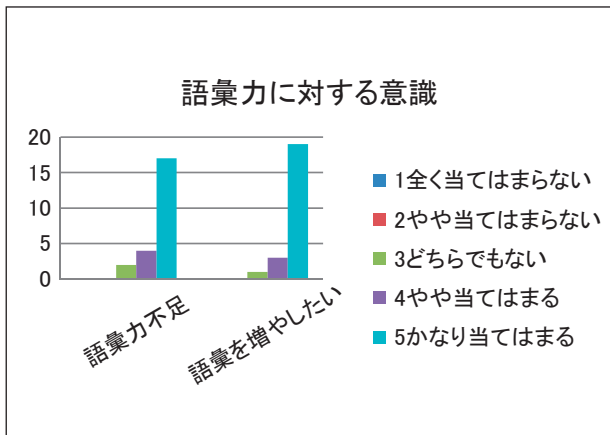


図1 語彙力に対する意識

課題が「語彙力向上に役立ったか」については、全体の87%が「当てはまる」としており、「英語学習につながったか」については、全員が「当てはまる」と回答している。課題をすることで、語彙を調べたり、発表の資料を作成することが、英語学習に相当することになったと考えられる。

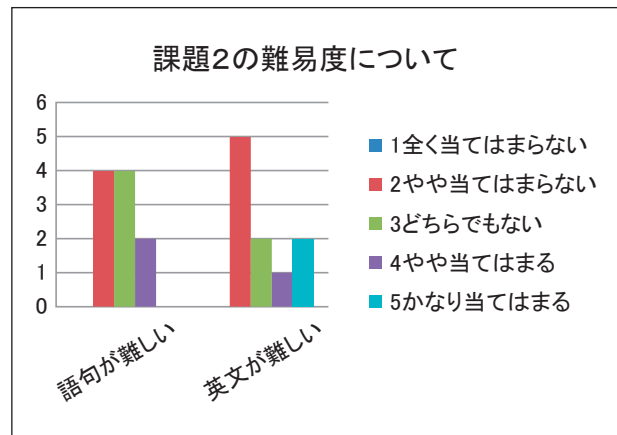


図3 課題2の難易度について

課題2と英語力向上との関係についての学習者の意識においては、1年生では、全体の60%が語句を増やすのに役立ったと答えており、英文理解の向上においては、90%が役立ったとしている。また、「英語学習の向上につながったか」の質問に対しては、全体の80%が当てはまると回答している。

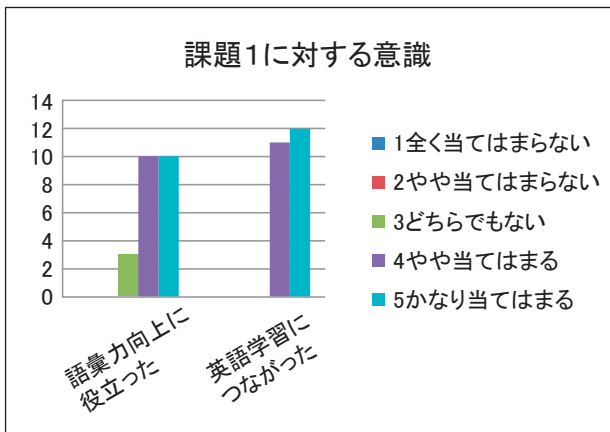


図2 課題1に対する意識

4.1.3 課題2について

翻訳の課題に利用した本の内容における語彙の難易度については、図3で示してあるように、全体の80%が難しくないと回答しており、英文理解の難易度についても、70%が難くないと答えている。

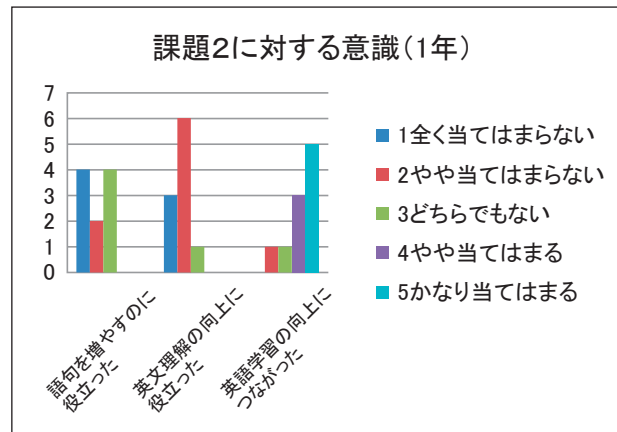


図4 課題2に対する意識(1年)

4.1.4 2年生の意識の比較

課題2において、2年生は前年度に引き続き、2回目の試みとなり、課題に利用した本は難易度を少し上げたものにした。課題に対する学生の意識の変化、また語彙力・英文理解の向上に変化があったのかを比較してみた。図5が示すように、語彙・英文理解の難易度に対して、1年次の時に比べ、「難しい」と回答した割

合がかなり減少したことがわかる。特に、英文理解においてはほぼ全員が困難であることに「当てはまらない」としている。

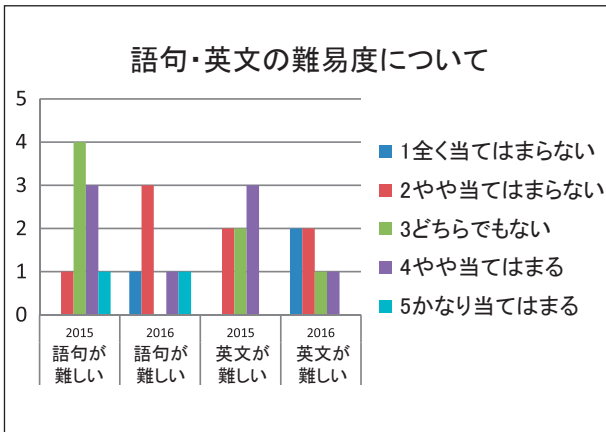


図5 語句・英文の難易度について

次に、2年次の課題2に対して、図6に示されているように、語彙力促進に役立ったのかについては、ほぼ全員が「当てはまる」としており、英文理解向上、また英語学習向上につながったかという質問においては、全員が「当てはまる」としている。1年次の時と比べると、英語力の向上の実感が伴ったと考えられる。

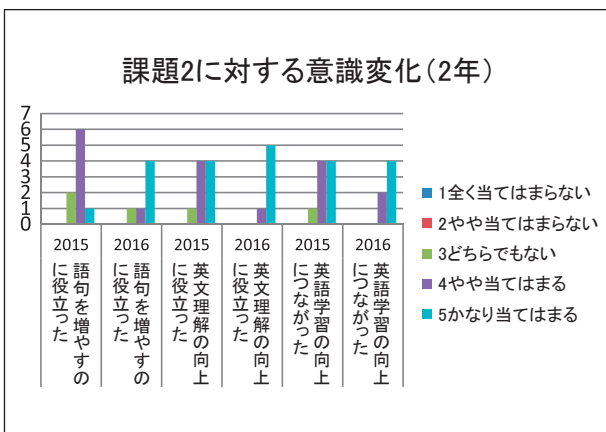


図6 課題2に対する意識変化 (2年)

#### 4.1.5 自由記述

アンケート調査の自由記述欄には、全体として肯定的な意見が多く見られた。課題1に対しては、自分で単

語の用法を調べることにより単語の学習につながったり、他の学生の発表を聴くことも学習効果につながったと考えられる。課題2の翻訳においては、ストーリーの内容が興味を持って取り組めたかどうかが大きく影響しているようである。

#### 課題1に対するコメント (1年生)

- ・いろいろな単語が知れてよかった。準備は発表も楽しかった。
- ・自分で調べた単語はいろいろな辞書で調べたから、記憶に残っている。
- ・日常生活で使えそうな英文もあったので活用したい。
- ・このことを通して単語力が上がったような気がする。来年もしてほしい。
- ・語彙力をどんどん増やしたい。
- ・みんなの発表で知識を得ることができた。とてもためになった。
- ・自分の知らないことが多くて、みんなの発表で知識を得ることができた。
- ・知らない使い方をたくさん知ることができたのは良かった。
- ・初めて知った意味や使い方もたくさんあったので、やってよかったなと思った。
- ・知っている英単語でも特別な使い方をしていたりする英単語もあって発表を聴いているのが楽しかった。

#### 課題2に対するコメント (1年生)

- ・話が分かっていくので楽しかった。
- ・自分が興味を持っている本を翻訳してみようという意欲がわいてきた。
- ・翻訳が好きなのでとても楽しく取り組めた。
- ・課題の内容はおもしろかったし役に立ったと思う。
- ・自分の訳本が作れる課題は楽しみがあって、取り組みやすい。
- ・読めるようになりたい。
- ・ストーリーのセレクトが良かった。読むのが楽しかった。



課題2に対するコメント (2年生)

- ・ストーリーがおもしろく、とても興味をもつことができてうれしかった。
- ・自分で訳した達成感があるから良かった。
- ・刑事もののストーリーだったので楽しかった。
- ・ストーリーがおもしろく、非常に興味が持てた。

## 5. 考察と今後の課題

2種類の課題を通して、本実践の目的に沿って考察をしていきたい。まず、ひとつめの目的である自主的な学習活動の習慣化の促進に効果的であるかについてであるが、課題1の単語(動詞)の用法を調べて発表することにより、語句の学習、定着が体験できたことが推察される。自分に対して語彙力不足を認識している対象者がほとんどで、そして、全員が語彙を増やしたいと考えていることが明らかになった。語句の学習方法や継続の重要性が認識できれば、おそらく自主的な学習活動が生まれるであろう。課題2では、毎週決まった範囲を翻訳し、提出することが、学習の習慣化に役立ったと思われる。語句の学習と英文理解の向上においても、2年生のアンケートの比較から推察することができる。2年生の翻訳の課題は、難易度が上がっているにもかかわらず、「語句が難しかった」「英文理解が困難であった」に対する回答は、両方とも減少している。また、対象者の意識においても、有効的であったと考える。これは、2年生の意識の比較からわかるように、「語句を増やすのに役立った」「英文理解の向上に役立った」「英語学習向上につながった」のすべての項目で、初めて課題に取り組んだ前年度に比べて、「当てはまる」と回答している学生が増えていることから明らかである。おそらく、前年度では、翻訳することだけが集中され、ストーリーを楽しむことができたり、翻訳することが英語学習の一部となり、また、それが英語力向上につながるまで、意識が向かなかつたのではないかと考えられる。最初のころは訳すのに時間がかかっていた

たようであったが、チャプターを読み進める毎に同じような表現が出てくるので、訳す時間も短縮していったようであった。城一(2013)が述べているように、読むプロセスにおいて知識やスキルの向上とともに、読む楽しさや満足感などの感情がもたらされると、読むことへの意欲が高まると考えられ、2年生においては、自由記述のコメントからも同じことが言える。

また、課題の難易度についてであるが、あまり学習者の負担にならない程度のもを課題2では選択することを重要視した。学習者が達成しやすいこと、継続してできることに重点をおいた。アンケートの結果から、語句・英文の難易度は適切であったことがうかがえる。

次に、今後の課題であるが、今回の二つの課題を通して、学習者の英語の活動意識が高まったことは見ることはできるが、どのように自主的な学習活動の継続につなげていくかが今後の課題である。セメスターが終了した時点では英語の本を読むことに興味を示すコメントはあったものの、実際に次の段階に進められるような指導を実施していなかったことは、一つの反省点でもある。今後の取り組みとして、第一は、自主的な学習の習慣を持たせることであり、そして、それを自己調整型学習につなげるようにすることである。自己調整学習には様々な理論的枠組みがあるが(伊藤, 2009), Zimmerman (1986, 1989)の定義によると、自己調整ができる学習者は、「メタ認知、動機づけ、行動において、自らの学習プロセスに能動的に関与する」とされている。つまり、学習の計画段階、遂行段階、自己省察段階において対応することができ、それぞれの段階で、メタ認知、動機づけ(情意面を含む)、行動(方略)を能動的にコントロールしていくことになる。自己調整学習においては、自己効力感が重要な役割を果たすとされ、竹内(2010)は、「教育的介入としては、自己効力感の効用にうまく働きかけける(教員らによる)動機づけストラテジーの使用が大切」(p.11)であると指摘している。教育的介入が可能な語彙学習方略指導な

どで、学習者の不安を減らしたり、励ましたりすることで、成功体験を与え、自己効力感を高めるような取り組みを意識的に行っていく必要があると考える。

## 6. おわりに

学習効果を促進する最も大きな要因の一つが、学習に対する動機付けを高めることであることは、明らかである。しかしながら、「やる気」にさせることの難しさは、すべての教員が頭をかかえることである。学習者自身が、自主的に学習をしていかなければ、どんな指導法・教授法を試してみても、十分な学習効果は期待できないであろう。本校の多くの学生は、中学、高校時代の英語の学習不足から、文法が苦手、わからない単語が多いといった英語基礎学力が不足している。城一（2013）が指摘しているように、英語基礎学力不足から「わからない」「できない」という英語に対して否定的な考えを持ち、ある種の英語に対する不安を

持っている。Krashen (1989) の「情意フィルター仮説」(affective filter hypothesis) が知られているが、不安の高さが英語習得の妨げになっている。一度英語学習につまずき英語が理解できなくなってしまうと、学習意欲は低くなり、次の学習活動につながらなくなる可能性が高くなる。まず、「わからない」「できない」という英語に対する不安を取り除いてやるのが大切である。それには、「簡単」「できる」そして「やり遂げた」という達成感が得られる学習活動が必要であると考える。今回の試みでは、まず、学習者にとって負担にならない程度の難易度のマテリアルを使用することによって、自分の力でやり遂げられることを重視した。この点においては、学習者の学習の動機づけに効果的であったと考える。そして、課題をすることが、英語力の促進にもつながるという意識を学生が持ったことで、今後の学習意欲の促進だけではなく英語力の向上にも繋がるストラテジーを考えていきたいと思う。

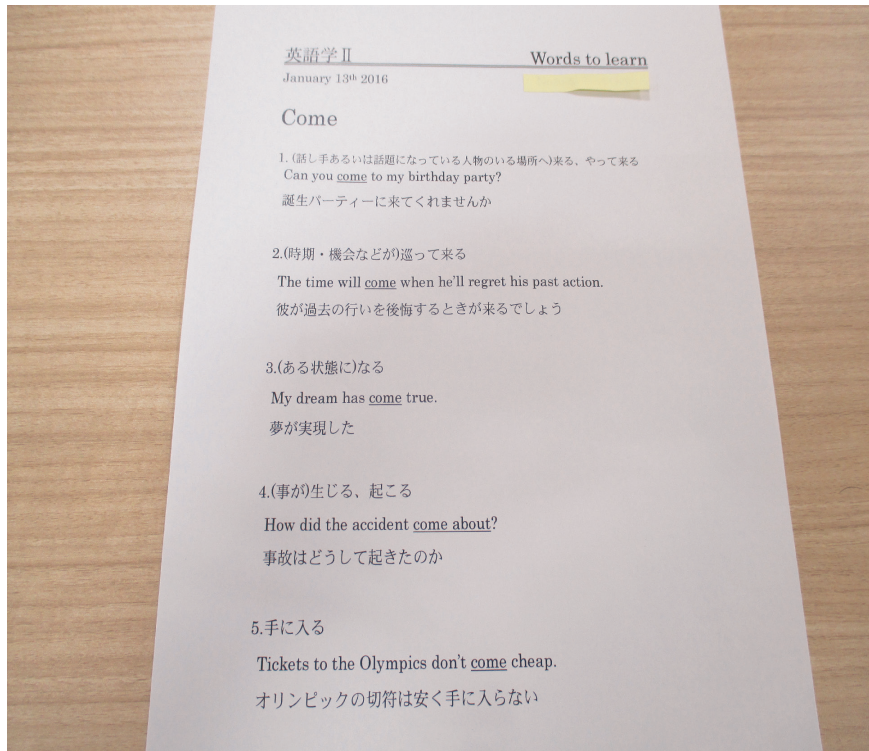
## 参考文献

- 1) Bandura, A. (1977). *Social learning theory*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.
- 2) Bandura, A. (1986). *Social foundations of thought and action: A social cognitive theory*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
- 3) Dörnyei, Z. (2001). *Teaching and Researching Motivation*. Harlow: Pearson Education Limited..
- 4) 伊藤崇達(2009). 『自己調整学習の成立過程 - 学習方略と動機づけの役割』北大路書房
- 5) 城一道子(2013). 「リメディアル教育における英語多読—読むことへの意欲を高める要因」『江戸川大学教育研究所紀要』12, 27-40.
- 6) Krashen, S.D. (1989). *Language Acquisition and Language Education*. Prentice Hall.
- 7) Krashen, S.D. & T.D.Terrell. (1983). *The Natural Approach: The Language Acquisition in the Classroom*. Prentice Hall.
- 8) McCombs, B.L. (1988). “Motivational Skills Training: Combining Metacognitive, Cognitive and Affective Learning Strategies” from Weinstein, C.E., Goetz, & Alexander, P.A. eds. *Learning and Study Strategies: Issues in Assessment, Instruction and Evaluation*. San Diego: Academic Press Inc, p141-169.
- 9) Nation, P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 10) 竹内理(2010). 「学習者の研究からわかること - 個別から統合へ」小嶋英夫・尾関直子・廣森友人（編）『英

語教育学体系台6巻成長する英語学習者—学習者要因と自立学習』(pp.3-20) 大修館書店

- 11) Zimmerman, B. J.(1986). Becoming a self-regulated learner: Which are the key subprocesses? *Contemporary Educational Psychology*, 11, 307-313
- 12) Zimmerman, B. J.(1989). A social cognitive view of self-regulated academic learning. *Journal of Educational Psychology*, 81, 329-339.

資料1 学生の作成した課題1 (1年生)



資料2 学生の作成した課題2 (1年生)

